

# 2023 ANNUAL REPORT

## — 2023年度事業報告書 —

2023年4月～2024年3月



アートワークショップ



2024年5月総会にて



みんなのフェスティバル



地域共生拠点・あすパーク



認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)

## 2023年度を振り返って

2023年度は新型コロナウイルス感染症が5類に引き下げられ、日常生活が戻ってきた1年となりました。しかしながらこの間、経済格差は顕著となり、人々の生活や仕事の行動様式、価値観にも影響を及ぼし、地域活動・高齢者ケア・子育て等における課題は多様で複雑になってきました。それらの変容に対応するべく、組織基盤の基本である人材養成や地域のネットワーク形成はじめ新たな事業にも取り組みをすすめ、ある面、変化に鍛えられた年度となりました。

新規事業の一つ目は「灘区地域活動人材発掘事業」で、行政区単独での初めての協働事業となりました。地域のデータや課題をまとめた「地域カルテ」の情報共有を出発点に、4つのエリアで行った座談会と、灘区全域で多様な区民が会した交流会を実施し、次年度の「灘区地域活動人材育成事業・なだ実践ゼミ」につなげることができました。パートナーシップのもと区単位での人材養成のモデル性も見えてきました。

二つ目は「地域福祉センター利活用公募運営事業」です。神戸市からの委託事業で、地域福祉センターを地域再構築にどのように活用していくのかというテーマのもと、NPO等とのマッチングコーディネートを担いました。改めて地域福祉センターは市民の財産であることを認識するとともに、いまだ未成熟な、地縁団体とNPOの関係づくりという側面においても前向きな可能性を見出すことができました。

一方で、2019年度より神戸市委託として運営してきた「神戸市コミュニティ相談センター事業」は、新設された神戸市地域協働局に業務移管されることとなり、2023年度末で閉所となりました。年度終盤での突然の決定であり、行政との協働における領域・手法・事業評価について問題が顕わになり、改めて協働のあり様を再考させられました。

このように変化の大きい1年でしたが、他にも「ミニワーカーズ実践塾」はじめ自主事業、委託事業、助成事業等合計25本の事業に取り組みました。各事業部が連携しながら「地域調査」から「活動グループの創出」に至るフェーズを担い、立ち上げ46団体・新規活動者557名という成果を残すことができました。また5年に1度の認定NPO法人の更新年度でもありましたが、「3000円以上の会員・寄付者が毎年100名以上」という基準をクリアできたことは、多くの応援者に勇気づけられた出来事でした。

来年は震災30年を迎える節目の年となりますが、今後も「自立と共生を理念とした地域社会をめざし、自ら活動する人々を応援します」をミッションに、皆様と共に居場所と役割のあるまちづくりを進めてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

### 2023年度の実績と成果

実績	新規相談者数	960名
	講座数	236本
	受講者数	2,678名
成果	立ち上げ団体数	46団体
	新規活動者数	557名



理事長 中村順子 事務局長 飛田敦子

ミッション

「自立と共生」を理念とした地域社会をめざし、自ら活動する人々を応援します。



なだ大交流会

2023年度  
Topics

7

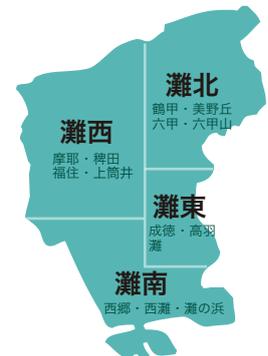
座談会と交流会に延べ200名が参加しました！

## 灘区地域活動人材発掘事業 (灘区委託事業)

灘区において地域コミュニティに関心がある区民に新たに出会うべく、「座談会」と「交流会」の2本立てで実施しました。まず座談会では、灘区内を4つエリアに分け、灘区役所とCS神戸が協働で作成した「地域カルテ」を手元に、それぞれの地区の現状を共有するところからスタート。「このエリアは特に単身世帯が多いね」や「このエリアは交通事故がよく起きているね」など、数値化された現状を共有することで、具体的な議論がすすみました。

交流会では灘区全体を対象とし、地域住民はもちろんのこと、NPO、地域団体、ボランティア団体、中学・高校・大学などの教育機関、企業、神社にいたるまで、100名以上の多様な方々の参加を得ました。プログラムのメインは後半のグループディスカッションで、座談会で得た意見から10のディスカッションテーマを抽出し、それら課題の解決アイデアをグループで話し合いました。

2024年度は発掘事業から一歩進んで、「灘区地域活動人材育成事業」を受託することが決まっています。未活動だけれど地域コミュニティに関心がある、という区民の皆さんとの新たな出会いを楽しみにしつつ、地域に必要とされる活動グループの創出を目指します。



### 交流会でのディスカッションテーマ

※座談会での議論より抽出

- 1 **高齢者**がいつまでも元気で暮らせる地域をつくるためにはどうすればよいか
- 2 **子どもや若者**が自分らしく楽しく過ごせる地域をつくるにはどうしたらよいか
- 3 **多世代**(高齢者・若者・子ども・外国人など)が楽しく交流できる場づくりはどうすればよいか
- 4 **単身世帯**が安心して地域で暮らすにはどうすればよいか
- 5 **災害**が起こっても障がい者や外国人を含め、安心できる地域づくりはどうすればよいか
- 6 **マンション・集合住宅**で自治活動をしたり、地域とのつながりをつくらせたりするにはどうしたらよいか
- 7 様々な**地域活動の情報**をきめ細かく受け取ったり、届けたりするにはどうすればよいか
- 8 初めての地域活動に参加する**きっかけづくり**はどのようにすればよいか
- 9 **次世代の担い手**が地域活動に参加しやすくするにはどうすればよいか
- 10 **企業**が地元でできる地域活動はどのようなものがあるか

2023年度  
Topics

2

24センター・31件のマッチングができました！

## 地域福祉センター利活用公募運営事業（神戸市委託事業）

当事業は地域福祉センター（以下センター）の利用率向上と施設の周知を目的とし、センターの指定管理者であるふれあいのまちづくり協議会とNPOなど利活用希望団体とのマッチングを通じて、つながりの創出や地域活動の活性化を目指す事業でした。単年度かつ8か月間という短期間の事業でしたが、市内全194センターのうち55センターが対象となり、うち24センターでマッチングができました。

まず事業の周知のため、センター向けに2回、NPO向けには5回の事業説明会を開催し、ダイレクトメール・HPメールニュースでも幅広く情報発信をしました。二次募集では個別団体への積極的なアプローチも行い、最終的には、区ごとにお願したサポーター団体の協力も得て、24センターで31件のマッチングが成立しました（利活用事例については下表参照）。またマッチングとは別にCS神戸からの新規提案として、交流のきっかけづくりを目的とした「本の小箱」を6センターに設置することができました。

当事業が担ったコーディネート業務は、2024年度以降は、各区の地域協働課に引き継がれています。今回マッチングしたセンター側もNPO関係者も満足度は高く、今後の継続的な連携や更なる発展を期待しています。



センター利活用の様子



本の小箱

区	利活用内容の例	センター数	本の小箱
東灘	昭和歌謡で認知症予防／介護家族のためのリフレッシュ教室など	3	
灘	小学生向け環境学習ワークショップ／大人のための絵本でおしゃべりなど	4	
中央	高齢者向けフレイル予防教室／保護者向け性教育／小筆体験教室など	5	1
兵庫	高齢者とその家族向け老い支度教室	1	1
北	発達障害児とその保護者の音楽療育／認知症の方・家族のランチ会など	3	1
北神	北神マルシェ	1	
長田	着付けの練習／木管フルート演奏会	2	1
須磨	小学生向けDTM(デスクトップミュージック)を活用した音楽遊びなど	3	1
垂水	大人向けゆるワクダンス	1	
西	赤ちゃん和妈妈のためのファーストサイン教室／産後のママ向け心身ケア	1	1
合計		24	6

2023年度  
Topics

3

3つの労働者協同組合(ワーカーズ)が立ち上がりました!

**兵庫型シニアショートワーク事業** (兵庫県雇用開発協会委託事業)

人生100年時代、少子高齢化が急速に進む中、本事業では昨年度に続きシニアのしごとの「切り出し」としごとの「創り出し」の二つの軸で活動をすすめました。

「切り出し」については企業を退職したシニアの求める働き方や職種、特に事務系の業務などを中心として企業から切り出す事に注力しました。コロナ禍の収束に伴い海外からの留学生が増加し、日本人学校の非常勤講師職の需要が増加するなど新しい職種の求人を獲得できました。

一方、「創り出し」では2022年10月に施行された労働者協同組合法に基づく団体創出に向けて、「協同労働ミニワーカーズ実践塾」という連続講座を上期と下期

に各5回、企画実施しました。結果、2023年度は2団体が立ち上がりました(2024年度初めにもう1団体立ち上がり現在計3団体)。職種は事務、介護福祉、植栽管理等幅広い分野に跨っており、大半が60～70歳代のシニア層が中心です。

また、3月には協同労働の働き方の普及啓発を目的とし、「協同労働で地域を育む～人生100年時代の働き方を探求する～」と銘打った「第2回協同労働セミナー」を開催し50名の参加を得ました。協同出資・協同労働・協同経営を理念とする労働者協同組合はメンバーが主体的かつ民主的に活動できる組織形態であり、次年度以降も積極的に創出サポートに携わっていく予定です。



第2回協同労働セミナー

## 立ち上がった労働者協同組合のご紹介

団体名称

## 1 助け合いケア労働者協同組合ヘルパント

阪急王子公園駅近くにあるデイサービスで配膳下膳や見守り、傾聴等の介護補助業務を活動分野にしています。当初は3名でスタートしましたが、現在は7名のメンバーが活動しています。週に4日、1日当たり4時間程度のショートワークで50～70歳代のシニア層が無理なく働いています。6月から更に2か所目の高齢者施設でも活動を開始します(代表:原中伸治)。



団体名称

## 2 労働者協同組合甲南げんき村

東灘区にあるコープこうべ甲南1Fに開設され地域の12団体が活動し、地域のつながりを育む場づくりを目的とした常設型みんなの居場所として、6月から正式活動をスタートさせました。具体的な活動内容は開設した居場所の管理と運営業務、会員団体の広報やコープこうべとの交渉窓口としてサポート業務を行います。会員団体数を更に拡大させて運営を軌道に乗せていきたいと思っています(代表:中村保佑)。



団体名称

## 3 労働者協同組合グリーンクルー

ブランチャ神戸学園都市の植栽管理をまちづくりスポット神戸の事業として担当して6年、2024年4月に労働者協同組合グリーンクルーとして法人化して独立しました。60～70歳のシニア層が一人当たり月に2、3回程度午前中を中心に無理なく活動しています。これからは地域に出て、人手不足で植栽管理にまで手が回らない介護施設、児童施設等の植栽のサポートもしていきたいと思っています(代表:新庄達也)。



2023年度  
Topics

4

地域調査を実施し、196件のニーズを抽出しました!  
地域しごとサポートセンター神戸 (兵庫県補助事業)

従来のコミュニティジョブ支援事業(旧生きサポ)が改変により、「地域しごとサポートセンター神戸(愛称はワラビー)」としてスタートしました。2023年度は、地域課題のニーズ把握を重視し、神戸市内で対人支援を行うNPO法人や任意団体など155団体と神戸市在住・在勤の個人85名の協力を得て地域課題に関するアンケート調査を行い、196件の生活課題を抽出しました(報告書はCS神戸HPで公開)。そして、調査結果からニーズの多かったテーマを組み合わせ「夕食付き子どもの居場所担い手養成講座」を開催。その後、東灘区内で週1回のペースで開催する夕食付き子どもの居場所が立ち上がり、活動をスタートさせました。年間の起業相談数は409件で、37団体が新たに起業、就業相談は367名のうち就職成立者は67名となりました。

また神戸市NPO設立運営相談窓口事業では、インボイス・電帳法・会計をテーマにした運営セミナーを開催、好評を得ました。NPO法人設立数は13団体でした。

CS神戸のグループ創出の流れ



2023年度  
Topics

5

5年間で668件の相談対応  
神戸市コミュニティ相談センターが閉所しました (神戸市委託事業)

2019年度から自治会等を対象とした相談窓口として運営してきた当センターですが、神戸市の突然の決定により、年度末で閉所となりました。2023年度は、従来の初任者研修に加え、自治会等を対象としたICT支援も開始し、相談件数も伸びてきていたため、非常に残念な結果となりました。神戸市地域協働局設置に伴い、各区地域協働課に事業移管されることとなりましたが、協働のプロセスや事業評価については課題を残しました。

これまで5年間の相談件数は合計668件で、「担い手・指導者問題」、「環境問題(主にゴミ出し)」、「総会・議決に関する問題」、「入会金など会計関係」、「防災・防犯」など自治会の運営そのものに関することから、ゴミやペットなど個別テーマに関わるものまで幅広い内容となりました。これまでの実績については「よくある質問FAQ集」にとりまとめ、市と共有すべく準備を進めているところです。

相談件数の推移



## プロジェクト報告

## 組織の“いま”を自己診断

## 地域課題に取り組むNPO等に対する運営支援のための相談窓口 (神戸市委託事業)

神戸市委託事業として2年目の取組ですが、本年度の神戸市助成受託144団体(前年度98団体)に対し、①自己診断カルテ・②個別相談・③グループ相談・④その他個別相談の4つの取組に、延べ123団体に参加頂きました。特徴としては組織基盤強化のための「自己診断カルテ」による“見える化”をスタートに、そこから「個別相談」、最後は「グループ相談」による組織基盤のあり方の共有・学び合いの場を設けました。



一連の相談窓口業務は、「中間支援コンソーシアム」(CS神戸と神戸市内の様々な分野での実績のあるパートナー3団体・サポーター5名による組成)で推進、多面的・根元的な伴走支援を行いました。参加団体の最終成果物として「実行計画シート」(重点取組の明確化・具体的施策・収支計画への反映まで)を作成、次年度の事業計画に反映いただきました。

## NPOと市民の出会いの場

## NPO・地域貢献活動フェア (神戸市委託事業)

昨年度に引き続き、活動メンバーを増やしたいNPOと、NPOに興味がある市民のみなさんとのマッチングを目的として実施しました。合計56団体が出展し、広く活動のPRをしました。フェアは出入り自由で、団体のブースで直接話せる気軽さから、155名の参加がありました。そのうち約6割に当たる91名が1日インターン体験をしました。さらにインターン参加者の約半数に当たる44名がインターン終了後も継続して活動の担い手になったことは大きな成果でした。2023年度の特徴は、運営をCS神戸単独ではなく認定NPO法人しみん基金・こうべ、智雲ボランティア活動研究所との共同事業体(JV)方式で行ったことです。三者が適切な役割分担をし、互いのノウハウを持ち寄ることで、楽しみながらも成果が上がるフェアをつくりあげることができました。ダイレクトにNPOの人材強化につながるこのフェアが定期的・継続的に実施されることを望みます。

## 参加・インターン受入団体の状況

	東部	西部	合計
①フェア来場者数	77	78	155
①フェア参加団体数	28	28	56
②インターン受け入れ団体数	28	28	56
③インターン後の継続人材獲得団体数	14	10	24
インターン実施率 ②/①	100%	100%	100%
継続人材獲得率 ③/①	50%	36%	43%



## だれにも居場所と役割のある地域社会を目指して

## 居場所立ち上げ・運営支援事業 (近畿ろうきん・ひょうごボランティアプラザ助成) (さわやか福祉財団協力)

2023年度は3つの取り組みを行いました。

一つ目が居場所関係者の学び合いやエンパワーを目的とした「居場所サミットin神戸」です。8回目となった今年度は実行委員会形式で開催し、居場所の運営に関わる「人」の増やし方について意見交換をしました。居場所運営者をはじめ101名の参加があり、会場は熱気に包まれました。

二つ目が「居場所調査研究会」です。兵庫県立大学NPO研究連携センター、智雲ボランティア活動研究所、NPO法人きょうどうのわと月1回程度の研究会を継続しました。7年目となる2023年度はコロナ禍においても継続・発展した居場所に焦点を当て、リーダーや組織の特徴から発展した要因について分析し、報告書にまとめるとともに報告会も実施しました。

三つ目が「常設居場所の共同広報」です。CS神戸の正会員より新聞の全面広告の寄付をいただき、市内17か所の常設居場所マップを掲載しました。常設居場所について広く周知する機会となりました。



常設居場所マップ



## 地域課題解決のためのトライアル拠点

### 地域共生拠点・あすパーク (自主事業)

灘区の大和公園内に立地するあすパークは、CS神戸の自主拠点として4年目を迎え、年間約1万人が訪れる拠点となりました。新しい団体の創出、地域のつながりづくり、という2軸で活動を展開しました。「新しい団体の創出」については、新しい法人格「労働者協同組合」をはじめとする5団体の立ち上げをサポートしました。また、約20団体が活動拠点として定期的にあすパークを利用し、オープンスペース利用率は7割を超えました。なかでも、「あすパ・ユース震災語り部隊」による若者の伝承活動は多数のメディアにも取り上げられ注目を集めました。



みんなで歌おうコンサート

「地域のつながりづくり」については、あすパークライブラリー、障がい者の方も来られる夕方の居場所「ゆんたく」、プランターで野菜栽培をする「あすパーク菜園」、有志が芝生広場で実施する「みんなで歌おうコンサート」といった多彩な取り組みにより属性や障がいの有無に関係なく誰もが地域活動に参加するきっかけづくりができました。

## 「アート」と「地域社会」の縁結び

### 生きがい活動ステーション ((公財) 神戸市民文化振興財団との協働事業)

「生きがい活動ステーション」は6月に9周年を迎えました。2023年度から事業テーマを「アート・文化」を主軸とし、情報提供者数は7,624名(昨年度比116%)、新規登録者数247件(昨年度比88%)、立ち上げ団体9件(昨年度比69%)、ボランティアマッチング数116名(昨年度比110%)となりました。



折り紙クラブ

新しい取り組みとして、「文化・アート・ボランティア」に関するテーマで学び交流する「大人の部活」を開催しました。社会参加と仲間づくりのきっかけとして、最終的に地域に役立つグループ立ち上げを目的とし、「スマホクラブ」「折り紙クラブ」「多文化クラブ」「絵本クラブ」の4クラブが立ち上がりました。

また、他団体とのネットワークづくりとして多世代でアートを体験できるイベント「アートな夏まつり」を初開催し、地域団体の出店は11団体、延べ200名強が来所、ワークショップ参加者は356名になりました。

## アートを通じたつながり創出

### 新たなつながりを創出するアートワークショップ in 神戸 (むすびえ委託事業)

「認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ」が内閣官房孤独孤立対策室から委託を受けたモデル調査事業の一環で神戸地域の実行団体を担いました。「孤独孤立防止」×「アート」という新たな組み合わせによるプログラムの試行・実施を通じて、各関係組織が福祉を超えた協働ノウハウを獲得することを目的に、誰もが気軽に参加できるアートワークショップを計3回実施しました(音楽・絵画・演劇)。企画内容では(公財)神戸市民文化振興財団に、会場提供では「こどもの居場所kiten」にそれぞれ協力いただきました。



演劇ワークショップ

当事業を通じて、アートプログラムと居場所の親和性が確認できるとともに、新たなネットワークや複数エリア合同で事業実施する場合の事業手法など、新たなノウハウを得ることもできました。

## 商業施設で生まれる新しいコミュニティ

### まちづくりスポット神戸 (大和リース株との協働事業)

まちスポは今年10周年を迎えました。商業施設という立地を活かし、来館者が地域活動を始めきっかけを幅広く提供しました。登録団体は101団体になり、登録団体とのコラボで実施するイベント「みんなのフェスティバル」では登録団体の活動を広く来館者に知らせるだけでなく、登録団体同士の交流も促進できました。まちスポの自主事業として実施していた「こどもエコクラブ」が団体として独立したこと、「グリーンクルー」が労働者協同組合として法人化し独立したことは大きな成果でした。

神戸市予約図書受取コーナーは1日平均200名が来館する貴重な拠点になりました。図書コーナー前のスペース「まちスポらぼ」では近隣の大学とコラボした「らぼ大学ゼミ」を実施し、大学とのネットワークをより強化することができました。



## 地域に愛される見守りステーション

### 神戸市立 JR 住吉駅前自転車駐車場 (神戸市指定管理事業)

神戸市指定管理事業の第5期4年度目の年に、新しくWEBで決済しQRコードで自動発券する定期WEBシステムをスタートさせました。開始までのトラブルへの改善提案を行い年末頃には、普及活動効果も現れ、定期業務の軽減につながりました。「新システムマンツーマン研修」「地域貢献事例研修」「挨拶・声かけ運動」など計5回の自主研修を実施してスタッフのWEBシステム理解を進め、併せて地域貢献活動に繋がる知識の習得を図りました。地域連携活動では、障がい者と駅前店舗などとの駅前清掃ボランティア、春・秋に障がい者支援5団体と落ち葉清掃ボランティアを実施、トライアル・ウィーク生徒も参加しました。通学時間帯には事務所前で挨拶声かけ運動を始めています。



## 質の高い評価の継続

### 介護保険地域密着型サービス第三者評価事業 (自主事業)

CS神戸は兵庫県の認証を受けて2012年度から介護保険地域密着型サービスである認知症高齢者グループホームの第三者評価機関となっています。兵庫県の評価調査者資格を取得している9名の在籍評価員が3名一組で訪問調査と評価結果検討会を行ない、事業所の了解も得て取り纏めた評価結果をネット上(WAMNETのホームページ上)に公開しています。CS神戸の第三者評価の特色は、①利用者である市民の視点、②職員を応援し事業所の良い所を伸ばそうという姿勢、③徹底した評価員の合議と独自様式の報告書、の3点です。事業所を応援する姿勢と簡潔で分かりやすい評価結果が好評を得ており、2023年度は25件の第三者評価を実施しました。

# 2023年度決算報告

※詳細版はCS神戸のHPに掲載しています

## 貸借対照表

資産の部		負債の部	
1.流動資産	58,811,691	1.流動負債	9,048,038
(1)現金・預金	48,696,036		0
(2)その他流動資産	10,115,655	負債合計	9,048,038
2.固定資産	36,707,462	正味財産の部	
(1)有形固定資産	20,244,542	前期繰越正味財産	85,390,781
(2)無形固定資産	275,960	当期正味財産増減	1,080,334
(3)投資その他の資産	16,186,960	正味財産合計	86,471,115
資産合計	95,519,153	負債及び正味財産合計	95,519,153

## 活動計算書

科目	金額	科目	金額
I. 経常収益		II. 経常費用	
1. 受取会費	574,000	1. 事業費	73,877,122
2. 受取寄付金	11,193,392	2. 管理費	14,454,825
3. 受取助成金等	8,809,694	経常費用計	88,331,947
4. 事業収入	68,545,914	当期正味財産増減額	1,080,334
5. その他収益	289,281	前期繰越正味財産額	85,390,781
経常収益計	89,412,281	次期繰越正味財産額	86,471,115

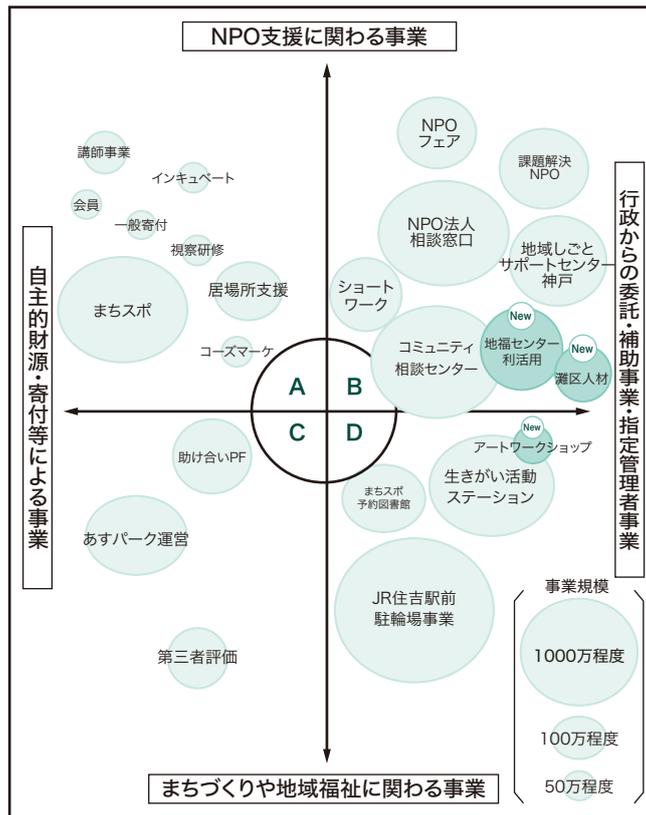
※固定資産の一部と賛助会費の8割を充当している「市民活動サポート基金」は、7団体に合計630,000円の助成金を交付しました。

- 自由演劇倶楽部えん／あすパークこどもリビング／一般社団法人つばみ／あすパ・ユース震災語り部隊／アンサンプル・ソレイユ
- まちライブラリーみなとじま／甲南げんき村協議会

# 2023年度ポートフォリオ

CS神戸における事業構成 2023年度決算

総額：8941万円



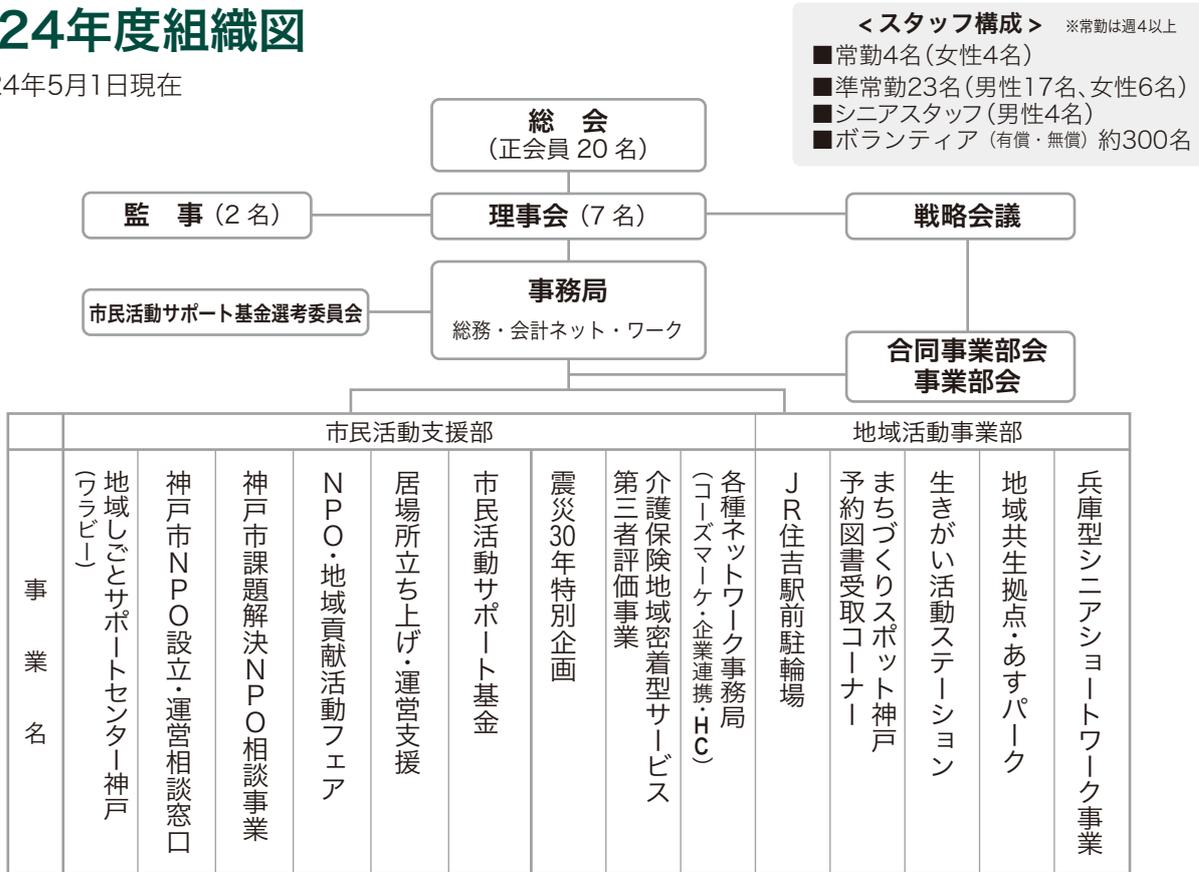
## 2024年度に向けて

今年度は2025年1月17日に震災30年を迎える節目の年となります。震災をきっかけに立ち上がったCS神戸として、通常業務に加え、以下の特別の五事業を総会で決議し取り組むこととしました。①常設居場所を主な対象とした応援金の交付、②団体創出を担う中間支援人材の養成プログラムの開発、③若者による災害伝承活動へのサポート、④各事業部での震災特別事業の実施、⑤新聞社と連携しNPOに関する記事の連載の5つの「震災30年特別企画」を計画し、実施します。決まり次第、随時HP等でお知らせしますので、ご期待ください。

今年度も「自立と共生」の原点を意識しつつ、新たな社会参加する市民の後押しをし、課題解決にあたる団体が多様に生み出されるよう、皆様とともに取り組みをすすめてまいります。

## 2024年度組織図

※2024年5月1日現在



## 事業所マップ



## 役員・会員・寄付者一覧

### ■役員

理事長	中村 順子	
副理事長	星野 裕志	中村学園大学 特任教授／九州大学 名誉教授
	佐藤 友美子	学校法人追手門学院 理事
理事	尾花 弘教	株式会社ウェルアップ代表取締役
	小室 邦夫	ヒューマンスキル研究所 主宰
	當間 克雄	兵庫県立大学大学院社会科学研究所 教授
	飛田 敦子	コミュニティ・サポートセンター神戸
監事	井上 隆文	元・神戸市職員
	奥村 一人	コンサルティングオフィスK 代表

### ■会員一覧(順不同・敬称略) ※2023年4月～2024年3月

**正会員(20名)** 足立 勝／池田 拓也／井上 隆文／上田 理恵子／岡本 仁宏／奥村 一人／尾花 弘教／川島 龍一  
小室 邦夫／坂本 登／佐合 純／佐藤 友美子／當間 克雄／中村 順子／長谷川 京子／飛田 敦子／藤原 和男  
朴木 佳緒留／星野 裕志／松下 忠義

**賛助会員・個人(85名)** 川島 悦子／宮崎 太喜夫／狩野 仁未／西田 幸夫／長田 幸一郎／畑中 進／稲田 薫  
東郷 寛／高橋 度／赤須 治郎／長澤 マリ／伴 和史／粟野 真造／桑山 信子／小林 義徳／川瀬 明彦／直田 春夫  
尾山 宗久／安元 邦夫／原 祥隆／小林 清隆／川島 かおり／田村 敏行／浜田 宏樹／伊谷 須美子／古結 洋子  
松嶋 剛史／泉 勇策／藤本 傑士／福地 啓子／岡田 雅幸／広井 かほる／松本 吉一／村上 義弘／藤本 隆  
平田 富士男／井筒 眞弓／高橋 貴之／上田 正也／大久保 和雄／堂馬 英二／片岡 治／黄田 昭子  
今別府 宏／上野 恭男／大西 佐知子／内田 満夫／保元 温／加藤 正博／細見 典子／植戸 貴子  
大和 三重／尼川 洋子／朴 徹雄／梶原 靖子／山村 弘美／新庄 達也／端 信行／日下 恵子  
落合 弘／蒲田 尚史／四宮 一夫／新福 たか子／池田 康二／増金 祐次／林 祐介／丸本 恭子  
子川 幹男／菅 祥明／朝山 日出夫／遠田 豊成／林 律子／吉川 忠寛／氏家 都子／瀬戸口 延恵  
朝倉 有子／森 功／與口 修／吉本 隆光／守永 浩一／西池 陽一／白井 一彦／松元 隆平  
金川 宏／兵頭 晴喜

**賛助会員・団体(11団体)** 株式会社ロック・フィールド／一般社団法人クルレ／株式会社まんぼう  
特定非営利活動法人薫風／株式会社神戸サンソ／自由演劇倶楽部"えん"／NPO会計支援センター  
東灘こどもカフェ／NPO法人ジンジャークラブ／ヒューマンスキル研究所／NPO法人山びこへるぷ

ご支援  
ありがとう  
ございました！

### ■寄付者一覧(順不同・敬称略)

**企業・団体(7団体)** 大和リース株式会社／有限会社 神輝興産／株式会社シカタ／商船港運株式会社  
明治安田生命保険相互会社／株式会社マザーネット／株式会社さんふらわあマリンサービス

**個人(23名)** 藤原 和男／高橋 貴之／松田 ヒロ子／藤井 芳典／野上 将光／飛田 敦子／小室 邦夫／佐藤 博史  
瀬戸口 延恵／藤本 隆／尾山 宗久／中村 順子／粟野 真造／守永 浩一／西池 陽一／尾花 弘教／村井 拓人  
山村 弘美／蒲田 尚史／小林 清隆／村戸 雅代／姫野 操子／長井 明子



認定NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸(CS神戸)

〒658-0052 神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104

TEL.078-841-0310 FAX.078-841-0312

E-mail : office@cskobe.com URL : https://www.cskobe.com